

スクールソーシャルワーク研究会しが 5月研修会のお知らせ

「子どもとの対話を広げていくために」

～自分のことを話すことから始まるエンパワメント～

主 催 スクールソーシャルワーク研究会しが

2025年 5月 17日 (土)

◇時間 13:30~16:00

◇場所 県立男女共同参画センター G-NEYASHIGA (研修室A)
(近江八幡市鷹飼町80-4 TEL.0748-37-3751)

☞ワークショップ 「RJサークル（修復的対話）」

今回も前半は、参加者の近況の交流や現場からの話題提供を兼ねた「R J」
サークルの形式ですすめます。

☞ワークショップ 子どもの「声」を大切にするために⑤ 自分のことを話すことから始まるエンパワメント

これまでの例会（研修会）では、子ども（他者）の声を「聴くこと」に焦点を
あて、主に聴く側の心構えや必要な知識等について考えてきました。

今回は、あえて逆側の「話すこと」に注目してみたいと思います

話題提供・コーディネーター 池田華子さん（大阪公立大学）

例えば、「悩みがあるなら何でも話して」と言われても、話そうとしても適切な言葉が見つからない、口に出すことが怖い、独りよがりと嫌われてしまうかも。そもそも私の話を聞いてくれる人なんていないだろう等、いざ自分を話そうとすると、思っているより難しいことに気づかされることってありませんか。

また、学校に目を向けてみれば、学校では声が出しにくいと感じている子どもたちの存在や、実は教師自身も自分のことを話す機会はそれほどない、といった状況があることも見えてきます。

人が自分のことを言葉にするとき、その人の内面では一体何が起こっているのでしょうか。また、それが上手くいかないのはどのようなときなのでしょうか。こうした問い合わせについて、当日はナラティブ・アプローチの観点から掘り下げてみたいと思います。

そのうえで、自分のことを話すことが、いかに人をエンパワメントすることにつながるか、参加者自身の身近な体験もふまえつつ、考えることができればと思います。

※ナラティブ・アプローチ：「ナラティブ（語り、物語）」という形式を手がかりに、現象に迫る方法のこと。なお、自分のことを言葉にすることを「自己物語（セルフ・ナラティブ）」と呼ぶ。

修復的対話(Restorative Justice)」とは ...

いじめなど人間関係におけるトラブルを対立や排除という方法ではなく、トラブルによって影響を受けた者が一同に会し、対話によって平和的に問題を解決すると同時に、トラブルの予防をも含んだプロセスです。

そこで約束事は、

- ① お互いを尊重する
- ② 話をよく聞く
- ③ 相手を非難しない
- ④ 話せない、話したくないときはパスしてもよい

であり、すべての過程で「人間尊重」を基本的な価値としています。(上からの強制ではなく、当事者ひとり一人の自主性と問題解決能力で予防・解決をめざします。)

+++++

◇参加費	会員	500円 (「SSW研究会しが」2024年度・2025年度会員登録済みの方)
	一般	700円

◇参加の申し込み方法

お名前・所属・住所・連絡先を記載して
ホームページ・FAXでお申し込みください。

- ① ホームページ <https://kancyan-house.com>
(「お問い合わせ」or「スクールソーシャルワーク研究会しが」のサイトをご利用ください。)
- ② FAXの場合 FAX 番号:0748-46-3283

◇問い合わせ等

問い合わせ先 090-3708-3315
(スクールソーシャルワーク研究会しが 事務局:佐子)

